

3-1	いのちの格差と知的財産権	所属 立命館大学 氏名 河原和之
資料名	内田聖子「パンデミックが映す命の格差」雑誌『世界』（岩波書店）2021年9月号	
資料内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界のワクチン格差</li> <li>○ 失敗に終わった「平等なワクチン供給」</li> <li>○ ワクチン・医療品の知的財産権免除の要求</li> <li>○ 急速に広がる「提案」への賛同</li> <li>○ 埋まらない溝</li> <li>○ 製薬会社への市民社会の運動</li> <li>○ 製薬企業の猛反発の中で</li> <li>○ グローバルな公共財の新たなルールを</li> </ul>	
教科書等との関連	中学校 公民的分野 平等権と差別 知的財産権 国際的人権の保障 高等学校 公民科 平等権と差別 知的財産権 公共財	
キーワード	コロナ 平等権 知的財産権 市場の失敗 市民運動	
ねらい	◆公正な医療アクセスとワクチンと知的財産権の是非について考察する	
活用場面 あるいは 授業プラン の概略	<p>① コロナワクチンの製造会社と接種回数</p> <p>&lt;発問&gt;コロナワクチンの製造会社名を3つ答えなさい</p> <p>ファイザー（米国）、アストラゼネカ（英国）、モデルナ（米国）</p> <p>&lt;ペアワーク&gt;2021年7月現在、約200か国でワクチン接種が行われ、世界全体の累計接種回数は約36億を超えた。米国では接種完了した人が人口の45%を超す一方、世界全体では人口の10%である。次の地域を接種回数の多い順に並べかえましょう</p> <p style="text-align: center;">北米 南米 欧州 アジア アフリカ</p> <p>【回答】北米30 欧州28 南米11 アジア8 アフリカ1</p> <p>② 持てる者も持たざる者も平等に（WHO）</p> <p>&lt;考えよう&gt;WHO（世界保健機構）のメッセージをどう思いますか？</p> <p>自国だけで感染を封じこめても不十分で、世界各国が協力して迅速に対応しなければならないと、どの国の政府も理解している。</p> <p>&lt;クイズ&gt;2021年6月、G7は、途上国への10億回分のワクチン供給に合意。だが、途上国の人々が2回接種するためには、この何倍のワクチンが必要か？</p> <p style="text-align: center;">約5倍 約10倍 約20倍 【回答】約10倍で110億回</p> <p>&lt;ペアワーク&gt;ワクチン格差は歴然としている。すべての地域（国）の人々にワクチンを接種できるようにするためにはどうすればいいか？</p> <p>③ 知的財産権を「一時免除」</p> <p>&lt;グループ討議&gt;2020年10月2日、南アフリカとインドが「新型コロナ関連のワクチン、医療品、診察ツールなどにかかる知的財産権を一時免除しよう」と提案した。これについてどう思うか？ヒントを参考に考えよう</p> <p>&lt;ヒント&gt;・知的財産権のほぼ9割は先進国の企業がもっている</p> <p>・1990年代のアフリカを中心に蔓延したエイズのおり、治療薬が入手できたのは、先進</p>	

	<p>国の患者と途上国の一部富裕層だった（薬代は特許により年間 100 万円必要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WTO加盟国 164 か国のうち 100 か国が賛成、反対は、米国、日本、EU, 豪州、カナダ、ノルウェー、ブラジルなど</li> <li>・モデルナは米国政府から約 25 億円、ファイザーはドイツ政府から 4 億 4300 万円の資金提供をうけた</li> </ul> <p><b>④ アメリカの市民運動から世界へ(2021 年 4 月)</b></p> <p>&lt;考えよう&gt;アメリカ市民は、ファイザー社など製薬会社の本社前でのデモや集会、オンライン集会を行い、知的財産権免除を要求した。米国が途上国支持に回ったことでWTOの構図は大きく変わった。アメリカの変化の要因は何か？</p> <p>【回答例】「自国が最大の感染国という当事者性」「T P P等でも知的財産権強化に反対してきた」「バイデン政権の誕生」</p> <p>*日本「(賛否を明確にせず) 日本が知財免除の議論に水を差すようなことはしない」(茂木外務大臣)</p> <p>*フランス、ベルギーなどは賛成、ドイツ、イギリスなどは反対</p> <p>&lt;まとめ&gt;「公共財としてのワクチンや医療アクセスについて知的財産権だけに限らず、生産体制や技術支援などの国際的な枠組みをつくる」</p>
<p><b>備考</b></p>	<p>&lt;グループ討議&gt;の賛否の事例</p> <p>【賛成】すでに製薬企業は政府、国際機関から公的資金を得ている インド株のようにグローバル化の時代だから世界が協力しないと感染は止められない</p> <p>【反対】特許を免除しても製造能力、流通経路、原材料の調達などの課題 知財権はイノベーションの原動力であり免除されると意欲が削がれる</p>